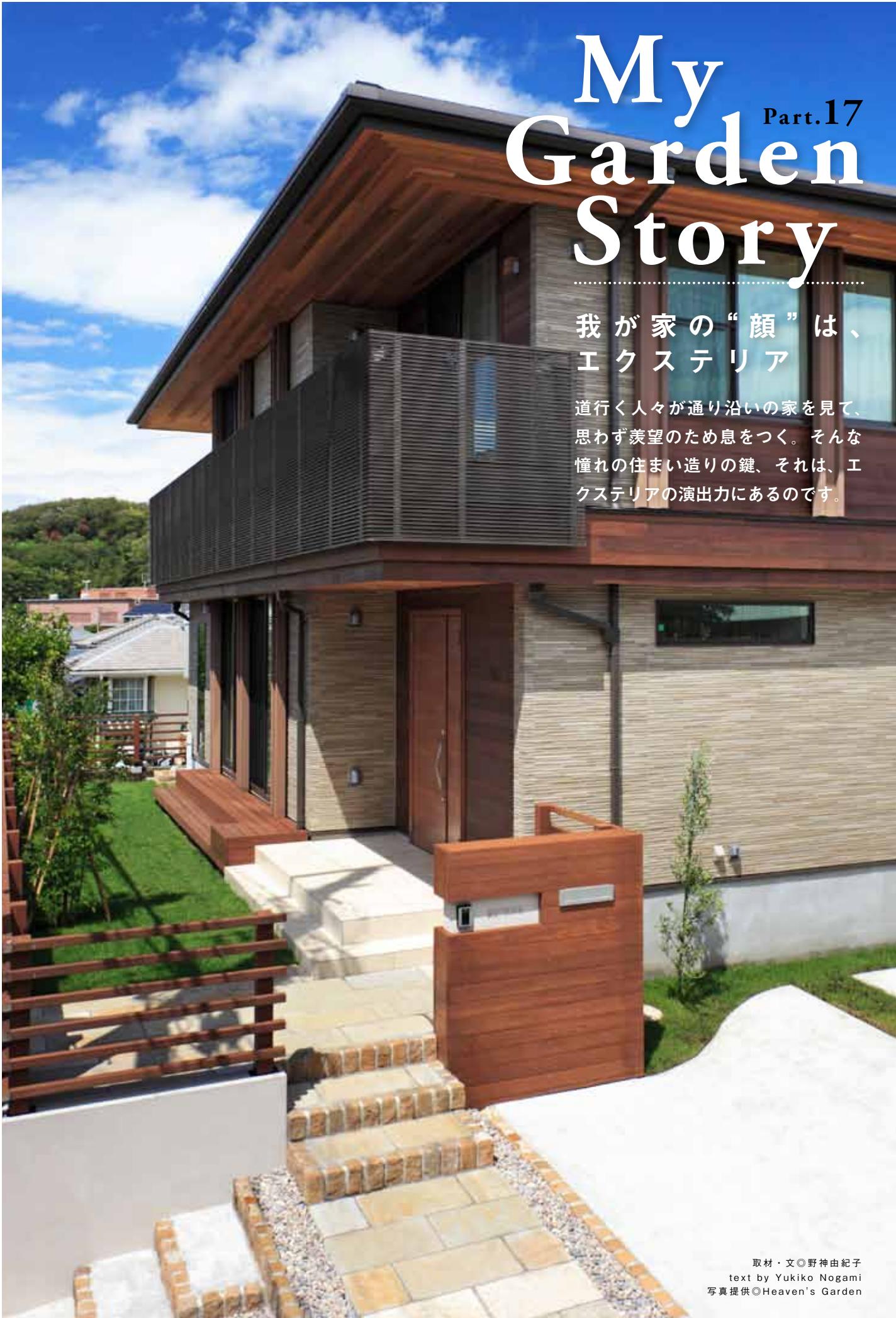


My Garden Story

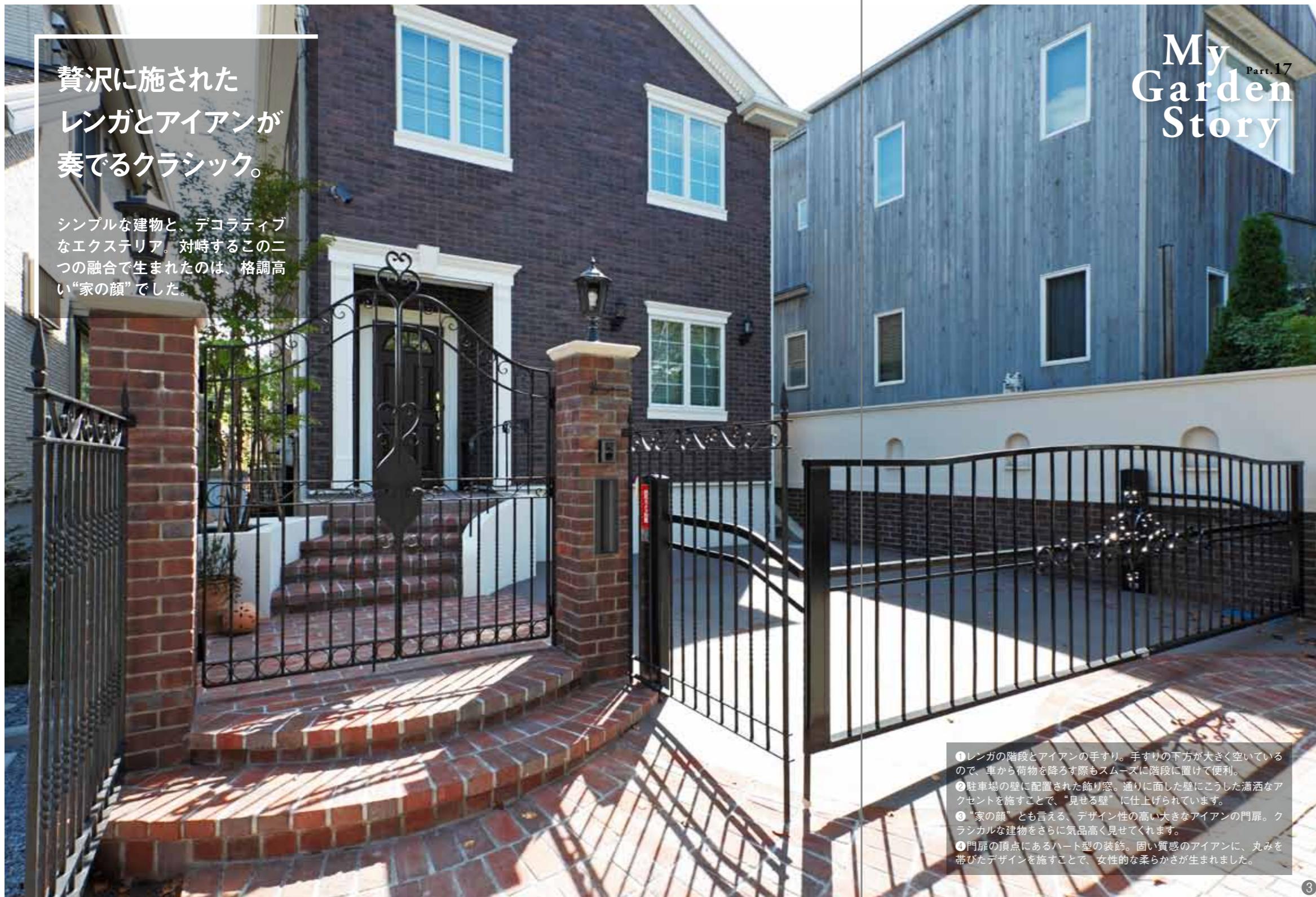
Part.17

我が家家の“顔”は、エクステリア

道行く人々が通り沿いの家を見て、思わず羨望のため息をつく。そんな憧れの住まい造りの鍵、それは、エクステリアの演出力にあるのです。



取材・文◎野神由紀子
text by Yukiko Nogami
写真提供◎Heaven's Garden

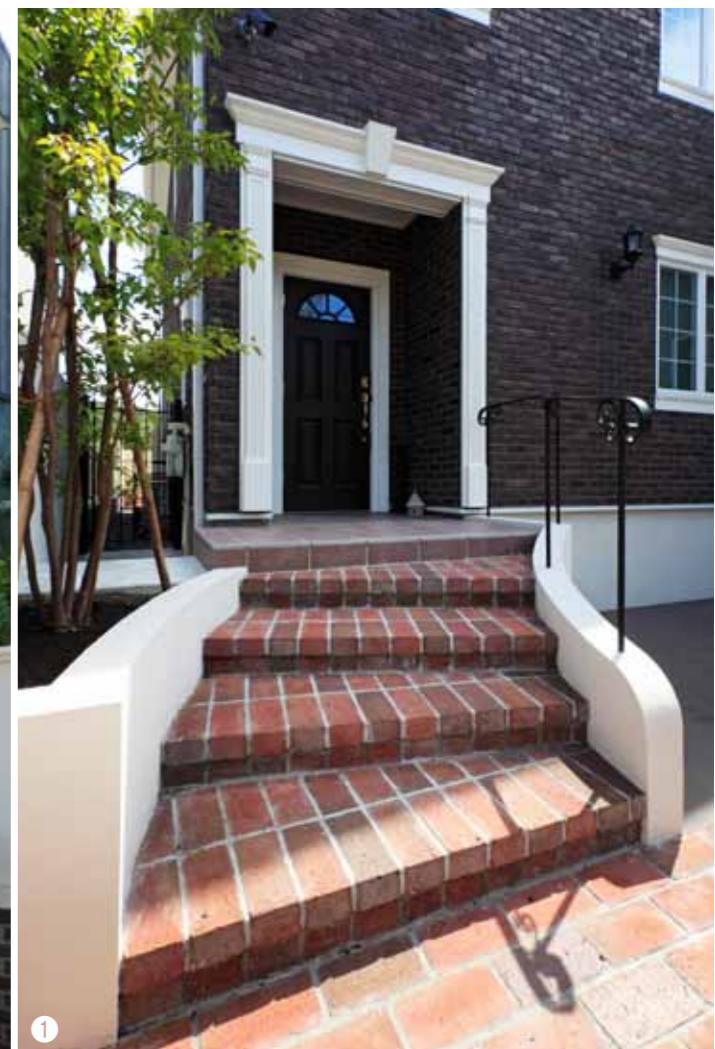


贅沢に施された
レンガとアイアンが
奏でるクラシック。

シンプルな建物と、デコラティブなエクステリア。対峙するこの二つの融合で生まれたのは、格調高い“家の顔”でした。

My Garden Story Part.17

- ①レンガの階段とアイアンの手すり。手すりの下方が大きく空いているので、車から荷物を降ろす際もスムーズに階段に置けて便利。
 ②駐車場の壁に配置された飾り窓。通りに面した壁にこうした洒落なアクセントを施すことで、“見せる壁”に仕上げられています。
 ③“家の顔”とも言える、デザイン性の高い大きなアイアンの門扉。クラシカルな建物をさらに気品高く見せてくれます。
 ④門扉の頂点にあるハート型の装飾。固い質感のアイアンに、丸みを帯びたデザインを施すことで、女性的な柔らかさが生まれました。



鎌倉市 Y邸

素材とデザインにこだわった豪華エクステリアが家の顔

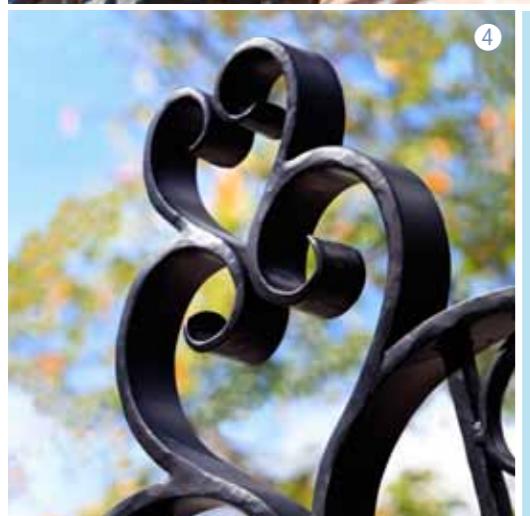
鎌倉の桜並木道に、大きなアイアンの門扉で目を惹くクラシック調の家があります。建物のデザインはとてもベーシックなものです、敷地全体を見渡すと“優雅”や“気品”といった格調高雅な言葉も感じられます。その理由は、素材の調和とデザインにこだわり抜いたエクステリアにありました。

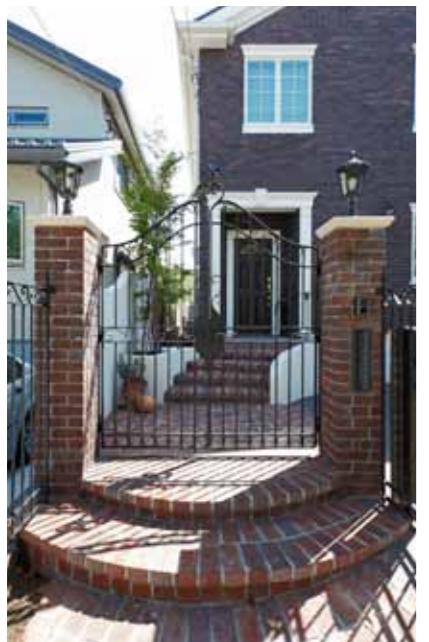
家主のYさんの希望は、「レンガとアイアンを取り入れ、『家の顔』となる門扉には高いデザイン性を取り入れたい」と

いうもの。そこで依頼を受けたエクステリアデザイナーの柿崎さんが提案したのが、褐色のレンガを用い、アイアンにフェミニンなデザインを施し、それを贅沢に盛り込む、というものでした。

「シンプルな印象の建物なので、エクステリアは大胆に仕上げました。『シンプル』と『デコラティブ』を絶妙なバランスで調和させることで、行き過ぎない優雅さを演出するためです。また、大量に使用すると重い印象になってしまふアイアンには、細身のラインの中に丸みやひねりを施してかわいらしい表情を持たせ、繊細な印象に仕上げました。それと、アイアンの存在感に負けない、堂々とした赤レンガ調の門柱も自信作なんですよ」。

素材の特性をシーンに合わせてコントロールすることで、エクステリアの表情は無限に広がる。そんなことを感じさせてくれたエクステリアなのでした。





ヘブンズガーデンは
エクステリア・ガーデニング
ウッドデッキの専門店です。



ヘブンズガーデン代表 柿崎 浩司 (二級建築士)
2003年テレビ東京系
『TVチャンピオン (ガーデニング王決定戦)』に出場



ヘブンズガーデン
〒 252-0813 藤沢市亀井野 1515
Tel : 0466-90-0555

0120-08-6658
www.heavens-garden-co.jp

ヘブンズガーデン

検索

My Garden Story Part.17

- ⑥天然木を長く渡したウッドフェンスで、さらに開放感と広がりをアップ。
- ⑦3種の石を用いたアプローチ。優しいコントラストを持たせ、動きと明るさを演出。
- ⑧家の存在感を支えるのに十分な重厚感を持つ門柱。全体の空気を引き締めてくれる。



壮大な造りの家を 受け止める、 エクステリアの力

家の美点をさりげなく反映し、住空間をさらに輝かせる。湘南で、そんなエクステリアに出合いました。キーワードは、“横ライン”です。

⑤ウッドフェンスに門柱、そして表札とポストなどを横ラインでシンプルに統一。 5



鎌倉市 A邸

長く渡るウッドフェンスで 開放感重視のエクステリア

“プライベート重視”的住空間の風潮にプラスの風穴をあけるかのよう、オーブンスタイルの風通しの良いエクステリアを見つけました。七里ガ浜の高台に暮らすAさんのお宅です。

「何はさておき開放感重視！」と柿崎さんにリクエストしました。するとその場でデッサンをしてくださり、それが私たちの理想以上のもので、さらなる要望まで引き出してくれました」とAさん。

柿崎さんが提案したのは、「家のデザ

インに横のラインが盛り込まれているため、エクステリアも横ラインを基本とする」というものです。「隠すよりも見せるデザインにすべく、ゆつたりとした空間を持たせたウッドフェンスに仕上げました。また、隠すデザインではないので十分開放的なのですが、非常に長い横のラインを作り出すことができたので、さらに視覚的な奥行きと広がりを持たせることができました」と柿崎さん。

また、建物自体に壮大な存在感があるため、それを受け止めるだけのパワーがエクステリアに必要だったと言います。

「家の存在感に負けない安定感と、開放感に不可欠な軽やかさ。この二つを違和感なく両立することで、豪勢なのにとても自然体なエクステリアに仕上げることができました」。

6